

## 船舶事故調査報告書

平成28年7月14日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	火災
発生日時	不明（平成28年1月30日 13時00分ごろ～31日 01時43分ごろ（通報時刻）の間）
発生場所	長崎県佐世保市臼浦港 臼浦港楠泊東防波堤灯台から真方位299° 1,000m付近 （概位 北緯33° 13.0′ 東経129° 34.3′）
事故の概要	漁船第十七大進丸は、無人で係留中、火災が発生した。 第十七大進丸は、機関室等が焼損した。
事故調査の経過	平成28年2月4日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第十七大進丸、19トン NS2-13959（漁船登録番号）、個人所有 16.40m (Lr) × 4.05m × 1.53m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数160、昭和57年12月21日
乗組員等に関する情報	船長 男性 65歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年10月7日 免許証交付日 平成27年9月29日 （平成33年4月24日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関室、操舵室、船室等が焼損（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れのち曇り、風向 北～北西、風力 2～3 海象：海上 平穏
事故の経過	本船は、船長ほか甲板員3人が乗り組み、平成28年1月30日09時ごろから臼浦港の本船係留場所で機関を約3時間半運転して網の積み込み作業を行い、13時00分ごろ全員が離船した後、無人で係留されていた。 本船係留場所付近の住民は、本船の操舵室付近が燃えているところを発見し、31日01時43分ごろ119番通報を行った後、船長に本事故の発生を連絡した。 本船は、地元の消防署員による消火作業が行われ、02時37分ご

	<p>ろ鎮火が確認された。</p> <p>本船は、後日、解体処分とされた。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図、写真1 本船の焼損状況①、写真2 本船の焼損状況② 参照)</p>
その他の事項	<p>本船は、船体中央付近に操舵室が、操舵室の下に機関室が、機関室の船尾側に隣接して船室がそれぞれ配置されていた。</p> <p>本船は、機関室後部にバッテリーが、機関室左舷側出入口付近に主機用のメインスイッチが、操舵室右舷側壁に配電盤が設置されていた。</p> <p>船長は、ふだん、離船する際には、主機用のメインスイッチ及び配電盤の元ブレーカを切るようにしており、本事故前に本船を離船する際、それらを切ったことを確認し、また、機関室内及び操舵室内に異常を認めなかった。</p> <p>機関室両舷にある燃料タンクには、本事故当時、A重油が約2～3kℓ積載されていた。</p> <p>燃料油は、燃料タンクから機関室の床板下に敷設された高圧ゴムホースを通じて主機に供給されていたが、本事故後、機関室の床板は燃えずに残っていた。</p> <p>本船は、機関室及び操舵室付近の焼損が激しかった。</p> <p>操舵室は、航海計器等がほぼ焼損して残っていなかったが、後部の寝台(畳)の一部が燃えずに残っていた。</p> <p>本船は、航海計器、照明関係、発電機、配電盤等の電気配線に明らかな短絡痕は認められず、また、バッテリー付近に焼損はなかった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>本船は、臼浦港の岸壁に無人で係留中、30日13時00分ごろ乗組員が離船する際に異常を認めず、火災を発見した付近の住民が31日01時43分ごろ119番通報を行っていることから、この間において、機関室又は操舵室付近から出火した可能性があると考えられるが、出火に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、臼浦港の岸壁に無人で係留中、機関室又は操舵室付近から出火したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>

付図1 事故発生場所概略図

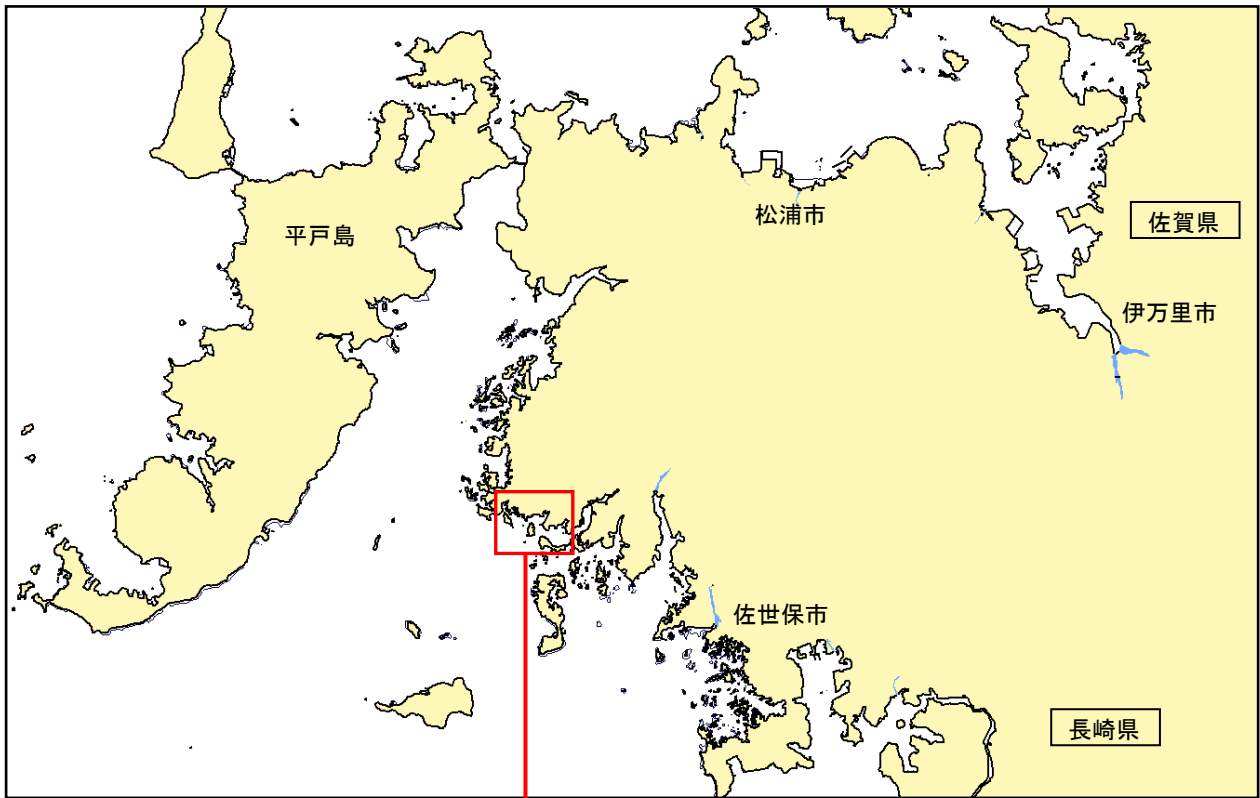


写真1 本船の焼損状況①



写真2 本船の焼損状況②

